

CASBEE埼玉県

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版、CASBEE埼玉県2015年版 ■使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	熊谷ラグビー場新スタンド	階数	地上4F
建設地	熊谷市上川上字西北島810 他353	構造	RC造
用途地域	市街化調整区域、防火地域指定なし	平均居住人員	500 人
気候区分	6地域	年間使用時間	400 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年8月 予定	評価の実施日	2017年1月23日
敷地面積	275,243.96 m ²	作成者	西嶋
建築面積	9,444 m ²	確認日	2017年1月23日
延床面積	17,072 m ²	確認者	細川



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.8

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (92 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 94% (46 kg-CO₂/年・m²)

③上記+②以外の 94%

④上記+ 94%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 3.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.4

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.9

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項	
総合 ラグビータウン熊谷を表象するランドマークとしてワールドカップ開催後も見据えたレガシーとして計画する。	その他 新スタンドの建設と併せて、平成3年竣工の既存のスタンドを取り壊すことなく改修整備することで、既存ストックの有効活用を図る。
Q1 室内環境 選手の士気を高めるよう、求心的な平面を有す選手更衣室、コンパクトながら視界の広がり確保したビューボックス・ラウンジなどを計画	Q2 サービス性能 どのような人にも使いやすい施設づくり ラグビー専用の施設として、選手と観客の距離の近い臨場感あふれるスタジアムを計画。 通行時に歩きやすく、かつ、座り心地も良い座面跳ね上
LR1 エネルギー 断熱性能を高め、冷暖房効率の向上を図る	LR2 資源・マテリアル 工業材・自然素材を問わず、県産材を積極的に使用し、輸送距離の短縮化によるCO ₂ 排出の抑制も図る。
	Q3 室外環境 (敷地内) 公園の環境を維持しながら、公園環境の向上を図る
	LR3 敷地外環境 PC化の推進による、仮設資材の使用の抑制を図る。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE埼玉県

重点項目シート

■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2015年版

1 建物概要

建物名称	熊谷ラグビー場 新スタンド	BEE	1.8	BEEランク	★★★★
------	---------------	-----	-----	--------	------

2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア			
3.2	+	3.3	=	6.5	
重点項目の各スコアの合計点					
がんばろう 6.0未満 	良い 6.0以上 	非常によい 6.8以上 	すばらしい 8.0以上 		

3 重点項目についての環境配慮概要

(1) ライフサイクルCO2の削減		スコア平均	3.2
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	3.2
<配慮した内容を記述> PC化の推進による、仮設資材の使用の抑制を図る			
(2) 緑の保全・創出		スコア平均	3.3
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	3.0
Q3 室外環境(敷地内)	3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア	4.0
LR3 敷地外環境	2.2 温熱環境悪化の改善	スコア	3.0
<配慮した内容を記述> 緑豊かな公園の自然環境を維持しつつ、スタジアムの収容力と試合の臨場感の向上を図る			

: 入力欄

CASBEE-建築(新築)2014年版、CASBEE埼玉県2015年版
熊谷ラグビー場新スタンド

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版、CA
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								3.6
Q1 室内環境			0.30					3.4
1 音環境		3.3	0.15					3.3
1.1 騒音		-	-					
1.2 遮音		3.0	0.67					
1 開口部遮音性能		3.0	1.00	3.0				
2 界壁遮音性能		-	-	3.0				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0				
1.3 吸音	天井:岩綿吸音板+床:タイルカーペット(仕上表)	4.0	0.33	3.0				
2 温熱環境		3.0	0.35					3.0
2.1 室温制御		3.0	0.50					
1 室温		3.0	0.38	3.0				
2 外皮性能		3.0	0.25	3.0				
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38					
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0				
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0				
3 光・視環境		3.3	0.25					3.3
3.1 昼光利用		3.0	0.30					
1 昼光率		3.0	0.60	3.0				
2 方位別開口		-	-	3.0				
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0				
3.2 グレア対策		4.0	0.30					
1 昼光制御	ブラインド+大屋根(庇)でグレアを制御(矩計図)	4.0	1.00	3.0				
3.3 照度		3.0	0.15	3.0				
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0				
4 空気質環境		4.2	0.25					4.2
4.1 発生源対策		5.0	0.50					
1 化学汚染物質	居室および換気経路上の諸室の内装材料はF☆☆☆☆とする。(仕上	5.0	1.00	3.0				
2 アスベスト対策		-	-	-				
4.2 換気		3.0	0.30					
1 換気量		3.0	0.33	3.0				
2 自然換気性能		3.0	0.33	3.0				
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33	3.0				
4.3 運用管理		4.0	0.20					
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50	-				
2 喫煙の制御	3階に喫煙室を設置(平面図)	5.0	0.50	-				
Q2 サービス性能		-	0.30					3.4
1 機能性		3.4	0.40					3.4
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40					
1 広さ・収納性		-	-	3.0				
2 高度情報通信設備対応		2.0	0.50	3.0				
3 バリアフリー計画	計画通知図書参照	4.0	0.50	-				
1.2 心理性・快適性		3.5	0.30					
1 広さ感・景観		3.0	0.50	3.0				
2 リフレッシュスペース		-	-	-				
3 内装計画	インテリアパースによる内装計画の事前検証を実施	4.0	0.50	-				
1.3 維持管理		4.0	0.30					
1 維持管理に配慮した設計	(仕上げ表、立面図、断面図)	4.0	0.50	-				
2 維持管理用機能の確保	(平面図)	4.0	0.50	-				
3 衛生管理業務		-	-	-				
2 耐用性・信頼性		3.0	0.30					3.0
2.1 耐震・免震		3.0	0.50					
1 耐震性		3.0	0.80	-				
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-				
2.2 部品・部材の耐用年数		3.1	0.30					
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20	-				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	使用頻度が低く、耐用年数を長期化	4.0	0.10	-				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20	-				
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-				

2.4 信頼性			3.2	0.20	-	-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備	節水コマを採用、配管系統の区分、井水の利用(機械設備図)	4.0	0.20	-	-	
3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性			3.6	0.30	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	FH=4,300以上(立面図)	5.0	1.00	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	基準階なし	-	-	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性			3.2	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		4.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.40	-	-	3.9
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		ラグビータウン熊谷を表象するランドマークとして存在感のある計画	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30	-	-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		公園内の既存緑地・高木を維持し、良好な温熱環境を計画	4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.6
1 建物外皮の熱負荷抑制			5.0	-	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.13	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI 非住宅 1.00 住宅(専有部) 0.83	4.0	0.63	-	-	4.0
集合住宅以外の評価(3a.3b)		省エネルギー計算書 参照	4.0	1.00	-	-	
集合住宅の評価(3c)			-	-	-	-	
4 効率的運用			3.0	0.25	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.7
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		省水型機器を使用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.7	0.60	-	-	3.7
2.1 材料使用量の削減		プレストレスコンクリート段床と現場打ちPC(型枠削減)を採用	4.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		ビニル系床材、タイルカーペット、断熱材	5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		ユニットシャワー等のユニット材を使用(仕上表)	4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			4.3	0.20	-	-	4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用		接着剤など	5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	炭酸ガスを発泡剤とした製品を使用	5.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
2 地域環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.6	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
3	交通負荷抑制	駐車場の分散配置により渋滞緩和(全体配置図)	5.0	0.33	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.3	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制	駐車場の分散配置により渋滞緩和(全体配置図)	4.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	広告照明は行わない	4.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	